

令和6年度(2024年度) 松本美須々ヶ丘高等学校 学校自己評価表(年度当初)

78 長野県松本美須々ヶ丘高等学校

I 教育目標とグランドデザイン 評価は、A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

学校教育目標	グランドデザイン	総合評価	次年度への課題
1 基礎的知識・技能の習得及び健康・体力の増進 2 自主・自律の精神及び豊かな情操・知性の育成 3 地域との連携による幅広い人間性の涵養 4 民主的で平和な国家・社会を形成する主権者の育成	地域の教育力を生かした多様な学びを実現 「人とつながる、地域とつながる、未来とつながる」		
松本美須々ヶ丘高等学校「3つの方針」			
目指す学校像 地域の教育力を活用した多様な学びを展開し、地域とともに愛され続け、発展していく学校 DP:生徒育成方針 グローバル化が進展する社会の中で自分の可能性を追求しながら、地域社会を支え、未来を創造できる生徒を育てます。 CP:教育課程編成・実施方針 地域の教育力を活用し、多様な学びを取り入れた教育課程を編成・実施します。 AP:生徒募集方針 基本的生活習慣が身につけており、多様な学びや体験活動に意欲を持って取り組む生徒を待っています。			
令和6年度(2024年度) 重点目標 (令和5年度～令和9年度 中期目標)			
(1) 教科の学習と探究的な学びの充実により、生徒一人ひとりが自らの進路と向き合い主体的に学ぶ姿勢を育成する。 (2) 積極的な情報発信等によって地域との接点を広げ、多様な人々とつながりながら学ぶことのできる、開かれた学びの環境づくりを進める。 (3) 相互に人格と個性を尊重し支え合い、人々の多様な在り方を相互に認め合える共生社会の形成者としての考えを醸成する。 (4) 自主性を重んじる生徒会活動や探究活動によって得られる経験に立脚し、一人ひとりが自らの可能性を最大限に発揮し、他者と協働しながらよりよい社会や新たな価値を生み出していく姿勢を育成する。 (5) 先を見通すことが困難な時代において、生徒の悩みや不安に寄り添い、学校と家庭の連携と、地域人材の活用を強化し、生徒にとって安心安全な学校づくりを進める。			

II 今年度重点目標(部署別) 評価は、A(十分)、B(おおむね十分)、C(やや不十分)、D(不十分)の4段階

部	中期目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目自己評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
教務		① 授業や諸行事が円滑に行われるように努めると共に、それに伴う諸問題の調整を行う。	・諸行事の計画・運営は適切であったか、生徒の視点・職員の視点で考えることができたか。また、それによって、行事の精選ができたか。 ・各行事の担当者・担当部署と緊密な連絡がとれたか。			
	(1)	② 各学年や分掌と密に連絡を取り合う。	・各学年、分掌と緊密に連絡を取り、効果的な学校運営が出来たか。			
	(2)	③ 安心・安全な学校作りに努める。	・防災計画を迅速に立案し、それに基づく安全管理が適切に行われたか。			
	(3)		・校内の危険箇所の把握に努め、適切な処置を施すことができたか。			
	(4)					
	(5)	④ 「3つの方針」の推進と、状況に応じた見直しを行う。	・地域との連携、体験活動、研修などを設定・実施できたか。 ・多様な学びを取り入れた教育課程を編成・実施できたか。 ・意欲を持った生徒を募集できたか。			
進路指導	(1)	⑤ 学校における働き方改革のための取組を進める。	・日課の見直しができたか。また、会議時間の短縮ができたか。長時間・時間外労働が解消されたか。			
	(4)	生徒が自分の能力や適性を的確に把握して、探究活動を通して科学や地域・国際社会にも目を向け、主体的に自らの生き方を考えて進路を選択できるように、さまざまな機会をとらえて計画的、組織的な指導をする。	・個人面談、LHR、学年集会、進路の日などの企画運営を通して、生徒が自分について考え、進路意識を高め、進路選択をする機会や資料を与えることができたか。 ・各学年の進路指導計画を遂行することができたか。			
	(1)	・予習→授業→復習という学習習慣の定着を図る。 ・Classroomやロイロノート、スタディサプリなどの活用方法を研究し活用を促進することで、生徒の家庭での学習の補助をする。	・平日の家庭学習時間1時間30分を達成できたか。 ・Classroomやロイロノート、スタディサプリなどを利用した動画配信、資料提供などを生徒に活用させることができたか。			
	(1)	生徒の進路選択にかかわる情報や学習成績と模擬試験の結果などを職員間で共有し、家庭と連携を取りながら教科や学年に助言と協力を求める。特に新課程入試についての対策を講じる。	・模擬試験の結果を職員間で共有し、教科や学年からの助言を生徒にフィードバックすることができたか。 ・新課程入試の情報と対応が生徒や職員間で共有できたか。			
	(3)	いかなる環境下においても学びを止めさせないために進路に関わる情報と資料を収集し、生徒や保護者及び職員に正確に発信するとともに、家庭と協同し生徒の学習面、生活面、精神面の支援をする。	・各学年の学年通信で情報を発信したか。 ・必要に応じて職員会での情報提供やマメールを使った発信をしたか。			

部	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目 自己 評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
生徒指導		①日常生活において、生徒・職員を問わず気持ちよい挨拶ができる。また、交通ルールの遵守、交通マナーの徹底、ヘルメットの着用の推進など、安全意識を高める。	①社会や学校のルールを再度確認させるとともに、これを遵守させる指導ができたか。自転車ヘルメットの着用を推進できたか。生徒が事故を身近に感じ、被害者にも加害者にもならないための交通安全指導ができたか。			
	(3)	②生徒との面談機会を増やして生徒の様子を細かく観察し、変化の予兆をとらえる。マメールを発信し、家庭との連携を密にして、信頼関係を築く。	②HR指導、頭髮指導、立ち番指導、巡視指導、挨拶運動などを実施できたか。また、匿名のアンケートを用いて生徒・家庭の意見に耳を傾け、的確に対応できたか。			
	(4)					
	(5)	③職員があらゆるチャンネルを駆使して、生徒の小さな変化にも気づき、情報を共有し、他部署と連携して初期対応を適切に行い、いじめや体罰のない学校づくりを進める。	③各学年会をはじめ、関係機関と緊密に情報共有し指導できたか。特にSNSの使い方と成人年齢が18歳に引き下げられたことについて、生徒に注意を喚起し、適切に指導できたか。			
生徒会		①他者と協力して諸問題を解決しようとする主体的、実践的な姿勢を育む。	・主体的、実践的に取り組ませることができたか。			
		②集団や社会の一員としての自覚を深め、保護者・地域との連携を図る。	・保護者・地域との積極的な連携が図れたか。			
	(2)	③健全で自由で活発な生徒会活動や部活動を推進する。	・健全で自由で活発な生徒会活動や部活動を実現できたか。			
	(3)					
	(4)	④相互に尊重し、友情を深めると共に、規律を遵守し共同生活の発展に尽くす姿勢を涵養する。	・多角的視野を持ち、他者を尊重することのできる人材を育成できたか。			
清美		⑤ポストコロナに対応した感染防止対策をしながら、生徒が前向きに取り組み、新しい生徒会活動を作り上げていくよう支援していく。	・新しい生徒会活動の構築に向け、適切な支援ができたか。			
	(3)					
図書視聴覚		①清美委員会と協力し、ごみの分別・可燃ごみの削減のために生徒自らが主体的・意欲的に取り組む姿勢を育成する。	・資源ごみの分別徹底により、可燃ごみの削減ができたか。			
	(4)	②職員・生徒の清掃に対する意識を高め、清潔で気持ちのよい学習環境を整えられるよう、適切な清掃活動を計画する。	・ごみ収集、大掃除、ワックスかけ、カーテン交換、モップ交換などの清掃計画は適切であったか。			
図書視聴覚		①生徒の主体的、意欲的な学びに役立つ図書館の蔵書や視聴覚教材・機器等を部で検討し、備える。	・生徒の主体的、意欲的な学びを支援する教材・機器などを備えることができたか。			
	(1)	②図書館資料やICT機器を用いた授業における活用方法の研究を進める。	・授業における図書館資料やICT機器活用に関する研修に参加する等、研究を進めることができたか。			
	(2)	③ICT機器を活用した学習支援が円滑に進むよう関係部署と連携する。	・ICT機器を活用した学習支援が円滑に進むよう関係部署と連携できたか。			
保健教育相談		①生徒が様々な活動に、主体的・意欲的に取り組むために、生徒の心身の健康を維持できるよう、支援体制を整える。	・生徒の心身の健康を維持するために、生徒の状況を把握、情報共有し、チーム支援ができたか。			
	(2)	②安心安全な学校づくりのために、早期に生徒の状況を把握する。教員間での情報交換を通じて、悩みのある生徒を初期段階で共有し、実態に応じた対応を行う。また家庭やスクールカウンセラー、外部機関とも連携する。	・問題を抱えている生徒の悩みに寄り添い、家庭や外部機関と連携し、支援につなげることができたか。			
	(3)	③健康診断や保健講話、健康相談活動などを通して、生徒の心身の健康課題の解決を図る。また、生徒が自分の力で健康の保持増進が出来るよう、保健指導や情報提供を行う。	・各種保健行事の実施や、全体又は個別に対する健康教育を行うことができたか。			
渉外		①学校と保護者、同窓会と連携を図り、PTA活動の企画・運営を行う。	・保護者の意見や要望について、関係部署での検討を依頼し、学校運営に役立てることが出来たか。			
	(2)	②PTA総会・理事評議員会をポストコロナに対応した形で、昨年に続き開催する。また、地区PTAの廃止に伴い、総会で会則を改正する。	・ポストコロナに対応した形で、PTA活動の再開ができたか。			
探究指導		①「総合的な探究の時間」を充実させるため、研究を重ね、深い学びの実現を目指す。	生徒の主体性を引き出す工夫をしたか。きめ細かな指導に向けた改善を行ったか。			
	(1)	②多様な学びを展開するため、地域との連携を推進する。	テーマや課題に関する情報の提供や人材の紹介などの機会を増やせたか。外部との連携の取り組みをさらに充実させることができたか。連携先を開拓できたか。			
	(2)					
探究指導		③キャリア教育を推進し、生徒の人生観・職業観を育み、個々の進路実現を支援する。	生徒の社会活動への参加を促進させることができたか。多様な学びの場を提供することができたか。生徒の進路実現に貢献したか。			
	(3)					
探究指導						
	(5)					

部	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目 自己 評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
1 学 年	(1) (2) (3) (4) (5)	①高校生としての基本的な生活習慣(時間厳守・挨拶・掃除)を確立し、活力ある、けじめのある高校生活を送る。	・時間厳守・挨拶・清掃等の基本的な生活習慣が身についたか。			
		②生活環境をしっかりと整え、気持ちよく生活を送る。	・生活環境を整え、生活ができたか。			
		③学びを大切にし、日々の学習内容・学習態度・学習方法を振り返り、基礎学力の定着が図れるよう指導する。また、平日及び週末課題を課し、家庭学習習慣の確立をはかる。	・基礎学力の定着が図れたか。また、家庭学習の習慣が定着したか。			
		④2年次に向け進路実現のための文理選択を考えさせる。特に、オープンキャンパスや総合的な探究の時間、LHRを通じて、自分の進路について考えさせ、学部学科を視野に入れながら文理選択を行い、より自分の進路を絞り込む。また、ライフプランの作成を通して将来の職業について考えさせる。	・学部学科を視野に入れながら、また、自分の進路実現のための文理選択ができたか。			
		⑤探究学習では、自分自身に目を向け、自分の興味・関心があることを追究させる。また、課題テーマを設定し、情報収集、分析・整理、表現・まとめ、振り返りといった一連のプロセスを学ばせる。	・自分に興味関心があることや探究のプロセスが理解できたか。			
2 学 年	(1) (2) (3) (4) (5)	①高校生としての基本的な生活習慣(時間厳守・挨拶・掃除)を確立し、活力ある、けじめのある高校生活を送る。	・時間厳守・挨拶・清掃等の基本的な生活習慣が身についたか。			
		②1日1時間30分以上の学習時間をとれるように習慣化する。SHR時に朝学習を行い、基礎学力をつけ、受験に向けての基礎を身に付ける。スタディサプリを活用して、大学進学を希望する生徒だけでなく、学習内容の定着がおぼつかない生徒にも補習を行い、学年全体が学びに向かう集団になる。	・学習が習慣化できたか。学年全体として学びあう雰囲気になったか。			
		③進路についての意識を高め、自分の視野を広げる。(オープンキャンパス・学校説明会・ミニ進路講座等の参加)10月の研修旅行後には受験モードへと気持ちをしっかりと切り替えて、志望校の決定を目指す。	・進路意識が高まり、受験モードへと切り替えができたか。			
		④探究学習について、多様な価値観・考え方に触れることで、自身を客観視し、主体的・協動的に取り組む姿勢を涵養する。地域や身の回りのことに目を向けて、課題や改善点を発見することで、地域の一員であることを自覚するとともに、よりよい地域の在り方を模索し将来地域社会で活躍できる人材になる。物事の本質を追求し、学術的な力を身につけよう。進路に結び付くような探究学習を行う。	・探究学習が、地域に絡みながら、自分の興味や進路に関係したものになったか。			
3 学 年	(1) (2) (3) (4) (5)	①自己の進路希望の実現に向けて計画的に学習するよう指導する。また、各自に合わせた探究型学習を進路活動に生かせるよう指導する。	・大学入試をはじめ進路情報について共有出来たか。 ・生徒個々の進路希望について保護者とも相談しながら学年全体で対応出来たか。 ・「総合的な探究の時間」を有効に活用できたか。			
		②生徒会活動や部活動等の課外活動にも積極的に参加し、充実した高校生活を送れるよう導く。	・高校生活を振り返って満足する生徒が多いか。			
		③学年通信・学級通信等も含め積極的に学校からの情報を発信し、家庭と協力することで生徒の安心安全な生活をサポートする。	・家庭と連絡を密にし、生徒個々の状態を把握することができたか。			
		④自己を大切にするとともに他者を理解尊重する姿勢を身につけ、社会で認められる人格を形成する手助けをする。	・自己肯定感を高め、多様な価値観を持つ他者に対する配慮ができるようになったか。 ・成人としての自覚を形成させることができたか。			

部	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目 自己 評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
国語	(1) (3) (4)	①言語教材、その他データ資料から正確に内容を捉え、現代社会の情勢を知り、我がこととして思考する力を育成する。	・目標達成のために資する適切な教材を設定できたか。 ・語彙力向上のための小テストを有効に活用できたか。			
		②生徒同士のコミュニケーションを活発にし、自分の意見を発信する力、他者の意見を聞くことによる多様な考え方を受け入れ柔軟に思考する力を育成する。	・生徒間コミュニケーションを図れる授業、記述レポートなどを組み込んだ授業展開ができたか。			
		③口頭(プレゼンテーション)、文章ともに、自らの考えを論理的に他者に伝えるように表現する力を育成する。	・生徒の進路に沿った表現の指導ができたか。			
		④古典文化と現代社会とのつながりを示し、幅広く深い教養による豊かな人間性を育むとともに、生徒の探究心を刺激するような授業展開を研究する。	・生徒の探究心を刺激するような授業研究のために、教員間で情報交換や授業参観ができたか。			
地歴公民	(1) (3) (4)	①グローバル化する国際社会、ダイバーシティ社会の構築が目指される社会を鑑み、主体的に生き、平和で民主的な国家・社会を形成する主権者を育成する。	・他者理解や主権者意識を高める学習活動を行えたか。			
		②地球的課題に関する知識を身に付け、それらを解決しようとする態度、他国や他文化を理解し尊重していく態度を身につけさせる。	・ディスカッションやレポート作成、生徒による自己評価、定期考査などを通して知識の定着と理解が図れたか。			
		③生徒の主体的・対話的で深い学びにつながる授業について研究する。	・PDCAに基づく授業の振り返りを実践することができたか。 ・教員同士で相互に授業を見合うなどしてお互いにアドバイスをすることができたか。			
		④教科の理解を深めたり、幅広い視野で物事を捉えたりできるように、ICT機器やオンライン学習システムなどを活用して新しい指導方法を研究する。	・新しい指導方法や教材・教具を工夫して利用することができたか。			
数学	(1) (3) (4)	①基礎事項の定着を図り、思考するための土台を築くことができたか。	・単元テストや確認テスト等を定期的の実施して、個々の習得状況を確認することができたか。			
		②ICTの利用を促進し、図やグラフ等を視覚に訴えることで、生徒の理解力を深める。また、ICTを活用した授業展開を研究する。	・ICTの効果的な活用について意見交換ができたか。また、授業の質の向上を図ることができたか。			
		③論理的に思考したことを「言語」によって表現できる能力を育成する。	・授業や提出課題、考査等で、生徒が論理的に記述をすることや発言をすることができる力を身につけるよう支援できたか。			
理科	(1) (3) (4)	①自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする態度を養うとともに、理解を深める。	自然の事物・現象に主体的に関わり、科学的に探究しようとする力が身につけられたか。加えて、理解を深められたか。			
		②観察、実験などを行い、科学的に探究する力を養う。また、そのために必要な技能を身につける。	観察、実験などを行い、科学的に探究する力を身につけられたか。さらに、そのために必要な技能が身についたか。			
		③授業におけるICT機器や各種アプリケーション(ロイロノート、Google等)の効果的な活用方法について、教科内外の授業相互視察等とおして、研究を推進する。	授業におけるICT機器や各種アプリケーション(ロイロノート、Google等)の効果的な活用方法について、教科内外の授業相互視察等とおして、研究を推進できたか。			
		④教科内の会議や報告・連絡・相談について、Teamsを適切に活用できるよう、実践と研究を推進し、働き方改善に努める。	教科内の会議や報告・連絡・相談について、Teamsを適切に活用できるよう、実践と研究を推進できたか。			

部	中期 目標	評価項目(重点目標)	評価の観点(具体的な取り組み)	項目 自己 評価	成果と課題(最終評価)	向上策・改善策
保健 体育	(1) (3) (4)	①運動に関する知識を深め、技能・体力の向上を図り、運動の楽しさや喜びを味わい、仲間と協力する姿勢を身に着ける。また、生涯スポーツにつなげる資質や能力を育成する。	・適切な服装、時間やルール等を遵守させられたか。集団行動の意義や、自分及び仲間の安全、仲間との協力や運動の楽しさを実感させられたか。 ・安全管理は適切であったか。 ・運動量は確保できたか。			
		②健康の保持増進のための知識や実践力を身に着け、実生活において活用できる考えを育て、明るく豊かな活力のある生活を育む態度を育てる。	・身近な話題に触れることで、興味関心を引き出し、日常生活及び今後の実践につながるような内容を提示できたか。			
芸 術	(2) (3) (4)	①芸術の授業を通して、生徒が自ら目標を設定し、意欲的に自己表現する姿勢を育成する。	・生徒が様々な芸術文化に興味関心を持ち、意欲的に取り組める教材設定ができたか。			
		②国内外の様々な芸術文化に関心を持ち、それぞれの芸術文化を尊重する姿勢を育成する。	・生徒個々の能力を見極め、意欲的に課題に取り組むための生徒支援ができたか。			
		③様々な表現活動において、自らが積極的に活動することはもとより、他者の表現を尊重する心を育み、共同して表現活動を行うための協調性を育成する。	・グループ活動における共同作業をスムーズかつ有意義なものとするためのアドバイスなど、生徒支援ができたか。			
外 国 語	(1) (2) (3) (4)	①英語の基礎となる単語、熟語、構文、文法などを定着させる。	①生徒の実態や目標に応じて適切な教材や学習方法を示し、学習定着の工夫ができたか。			
		②グループ学習やプレゼンテーション活動を通して、生徒自身の意見を英語で発信する能力を育成する。	②生徒に意見を発信させる機会や課題を与え、適切な助言や指導ができたか。			
		③生徒の能動的な活動を通じて、4技能とともに思考力やコミュニケーション能力を育成する。また、英語検定などの外部試験も活用するように促す。	③知識定着に加え言語活動を多く取り入れ、英語検定なども活用し英語の運用能力を総合的に育成することができたか。			
家 庭	(1) (2) (3)	①急速に変化する社会の状況に目を向け、多様化する家族・家庭や生活様式について理解し、自らの生き方をデザインする姿勢を育成する。	・社会の出来事に興味を持たせ、現状を理解し、自分の生活と関連づけて考えさせることができたか。			
		②「持続可能な社会」の実現に向けて、家庭生活や地域社会へ関心をもち、自ら課題を発見し、解決していくための知識や実践力を身につける。	・学習で得た知識・技術を活用し、生活を巡る様々な問題を意識させ、課題解決に向けた学習活動を充実させることができたか。			
		③ICT機器を活用した教材作成や外部との連携による学習指導等、効果的な指導方法についての研究を深める。	・生徒が主体的に学習する環境を整備することができたか。			
情 報	(1) (2) (3)	①情報学の基礎となるリテラシー、基本的知識、実践技術、セキュリティ意識、情報モラルなどを定着させる。	・授業を通して、基礎的な知識スキルが定着したか。			
		②グループワークやプレゼンテーションの作成発表を通して、生徒自身の発信する能力を育成する。	・生徒が積極的に自分を表現し、発表することができたか。			
		③積極的にICT機器を活用した教材作成や学習指導等、効果的な指導方法についての研究を深める。	・高度情報科社会を生き抜いてゆく基本的方法を身につけることができたか。			